Go Global With Dream

JISA グローバルビジネス アンケート調査分析

2016年12月6日

グローバルビジネス研究会

アンケート概要

- 調査期間：2016年8月23日～9月26日
- 対象：グローバルビジネス研究会参加企業 36社
- 回答：24社（回答率 67%）

2016年　国別進出先ランキング（全体）

- 全体の重要性としては、中国、米国、シンガポールの3カ国は上位に定着
- ベトナム、ミャンマーは着実に関心が高まっている
- インドネシア、タイ、マレーシアなどASEAN中進（中心）国は関心が一段落したと見たらいいのか、全体に落ち着いてきている
- 米国をはじめとした先進国が見直されている
- 現在よりも将来に期待している国は台湾、香港、タイ、ミャンマー、インドネシアの5カ国

現在の進出先

順位	前回比較	国	12年調査	14年調査	16年調査
1	→	中国	71	55	56
2	→	米国	25	18	19
3	→	シンガポール	11	13	14
4	↗	ベトナム	11	8	13
5	↘	英国	10	11	9
5	↗	タイ	5	5	9
7	↘	インド	6	6	8
8	↘	フィリピン	6	5	5
9	↗	韓国	3	3	4
9	↗	インドネシア	2	2	4
9	↗	ミャンマー	4	2	4
9	→	カナダ	1	4	4

将来の進出先

順位	前回比較	国	12年調査	14年調査	16年調査
1	↗	ベトナム	20	11	14
2	→	中国	32	13	13
3	→	シンガポール	21	11	11
4	↗	ミャンマー	13	7	10
5	↗	米国	19	5	9
6	↗	台湾	4	6	8
6	↘	マレーシア	8	11	8
8	↗	香港	6	4	7
8	↘	タイ	15	11	7
8	↘	インドネシア	15	14	7
8	↗	インド	10	5	7

2016年　国別進出先ランキング（マーケット視点）

- 研究開発拠点を海外に設置したい意向が強まっている。「米」「独・仏」「インド」が対象国。
- 現状では先進国市場への回帰に加えと人口の多い国重視の傾向が明らか。
- 将来的には、中・印・越への期待が大きい
- 中国メインランドへの関心に大きな変化はないが、台湾、香港を含むグレーターチャイナとして関心が強くなりつつある

現在の進出先

順位	前回比較	国	12年調査	14年調査	16年調査
1	→	中国	31	30	30
2	→	米国	23	10	14
3	↗	英国	9	6	8
4	↘	シンガポール	8	9	7
5	→	台湾	3	4	6
5	↗	ベトナム	5	3	6
7	↗	インドネシア	2	1	5
7	→	インド	1	3	5
9	↘	独・仏	4	4	4
9	↘	マレーシア	2	3	4

将来の進出先

順位	前回比較	国	12年調査	14年調査	16年調査
1	↗	中国	16	8	12
1	↗	ベトナム	9	9	12
1	↗	インド	6	6	12
4	↗	米国	17	4	10
5	↗	台湾	4	5	8
5	↘	シンガポール	15	9	8
7	↗	香港	5	1	7
7	↗	独・仏	1	1	7
9	↗	ミャンマー	2	0	6
9	↘	タイ	9	8	6
9	↘	インドネシア	9	16	6

2016年国別進出先ランキング（調達視点）

- 将来の重要性については中国が第1位に復帰した
- インドの重要性も見直されてきている
- ミャンマーはまだしもベトナムからの調達については将来的な期待がさほどではない。（むしろマーケットに関心）

現在の進出先

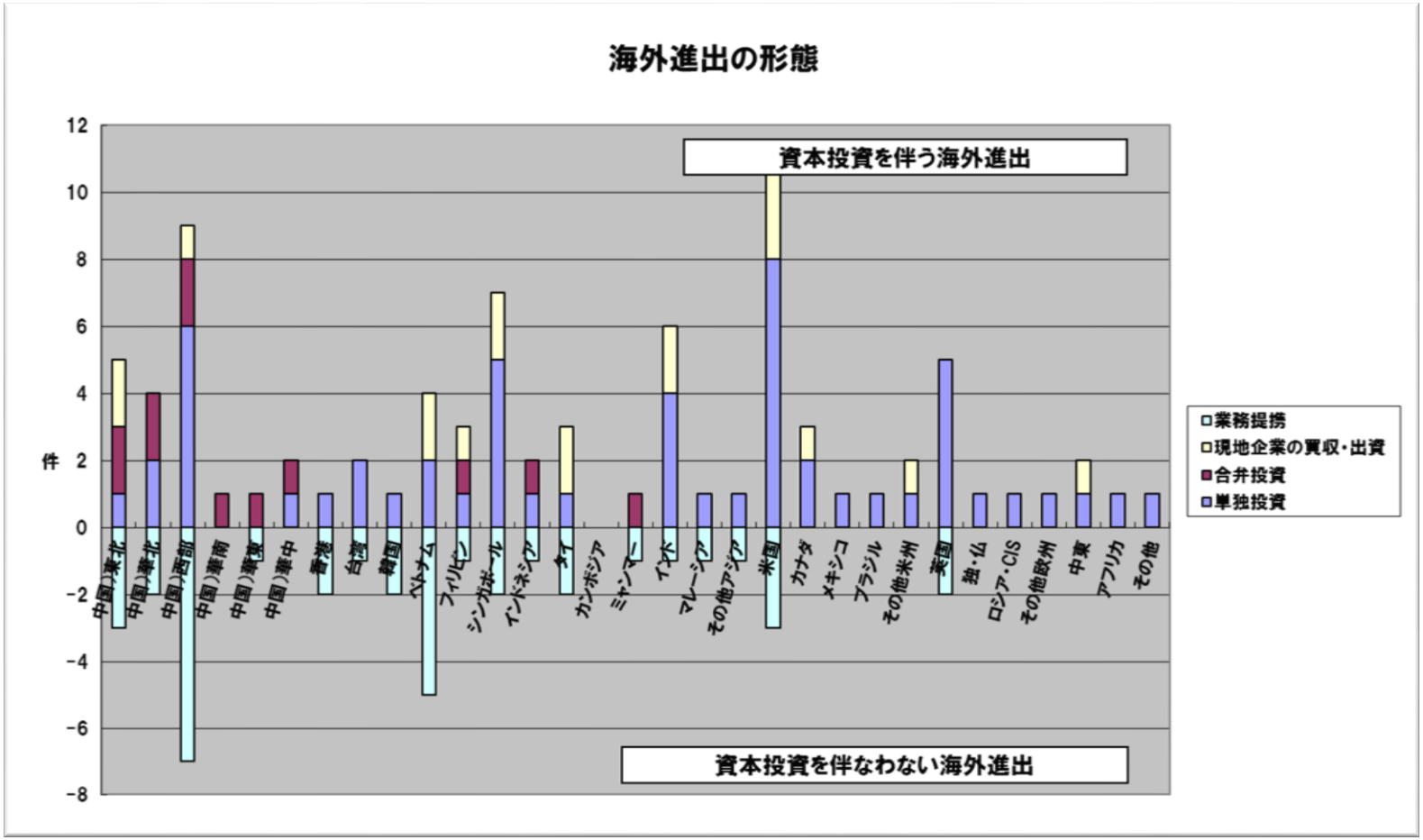
順位	前回比較	国	12年調査	14年調査	16年調査
1	→	中国	40	47	49
2	→	ベトナム	6	11	13
3	→	インド	5	10	7
3	↗	米国	2	4	7
5	↗	ミャンマー	3	2	4
5	↗	カナダ	0	2	4
5	↗	英国	1	2	4
8	↘	ブラジル	2	2	3
9	↘	シンガポール	3	3	2
9	↗	インドネシア	6	0	2
9	↗	メキシコ	0	0	2

将来の進出先

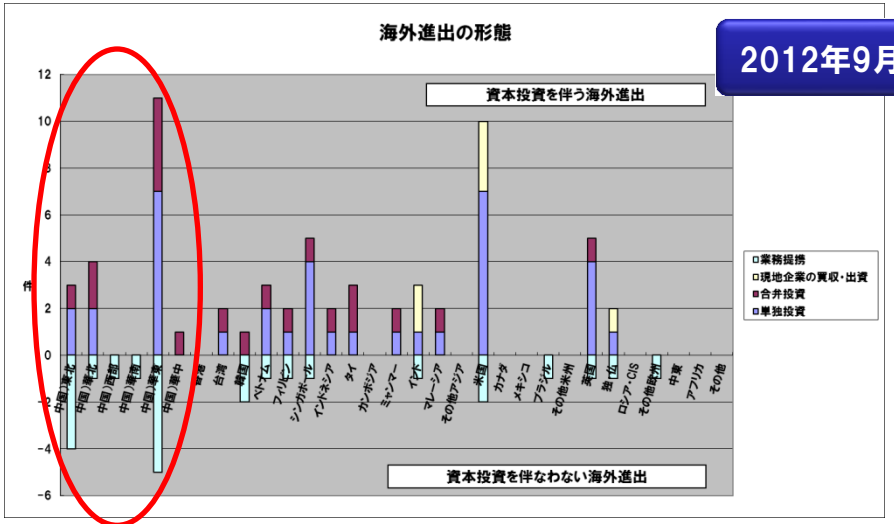
順位	前回比較	国	12年調査	14年調査	16年調査
1	↗	中国	16	9	11
2	→	ベトナム	11	10	8
3	↗	インド	4	2	7
4	↘	ミャンマー	8	11	6
5	→	インドネシア	6	5	2
5	↗	ブラジル	4	1	2
7	↗	台湾	0	2	1
7	↘	タイ	6	3	1
7	↘	マレーシア	4	6	1
7	↗	カナダ	0	1	1

海外進出の形態

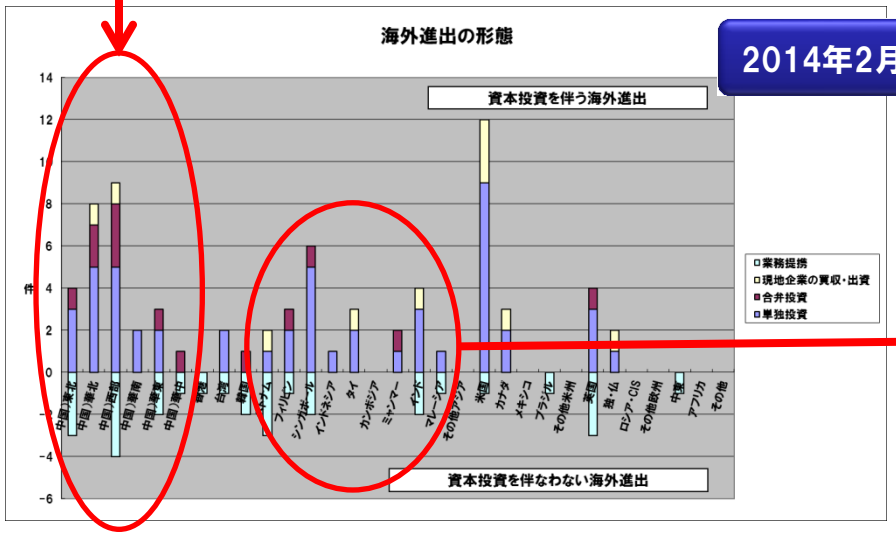
■ 全体として資本投資を伴う進出形態が多く、積極的にリスクテイクしている傾向継続

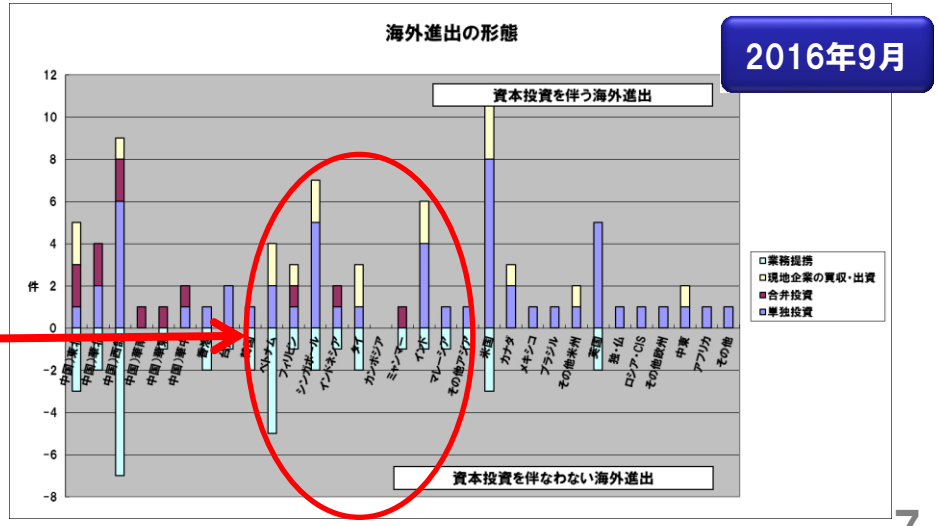


海外進出の形態変化（2012/9→2016/9）



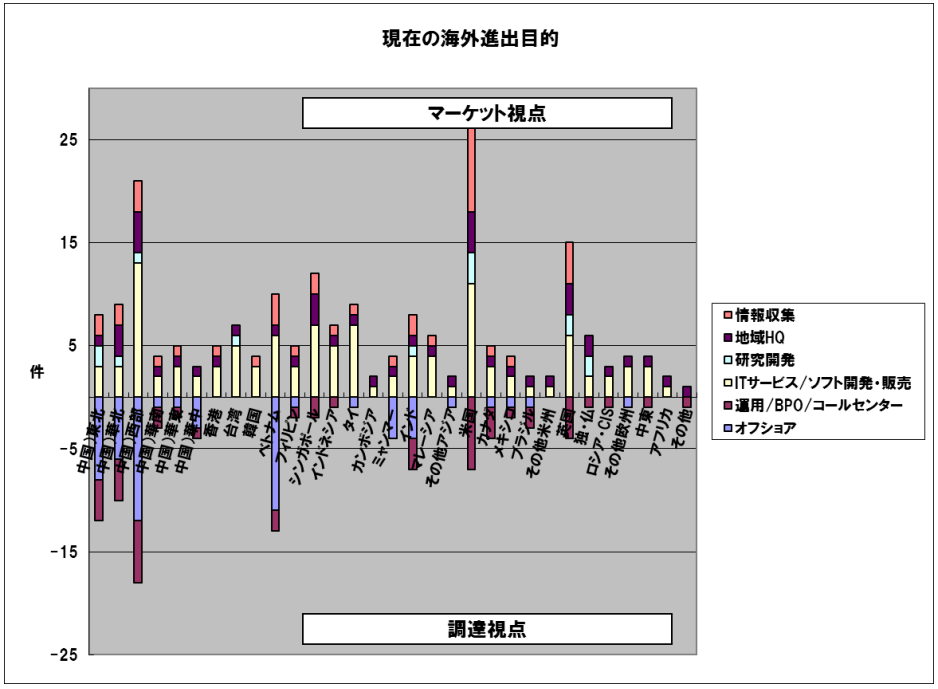
- 東南アジアへの進出が若干増
- 中国の進出傾向はあまり変化なし

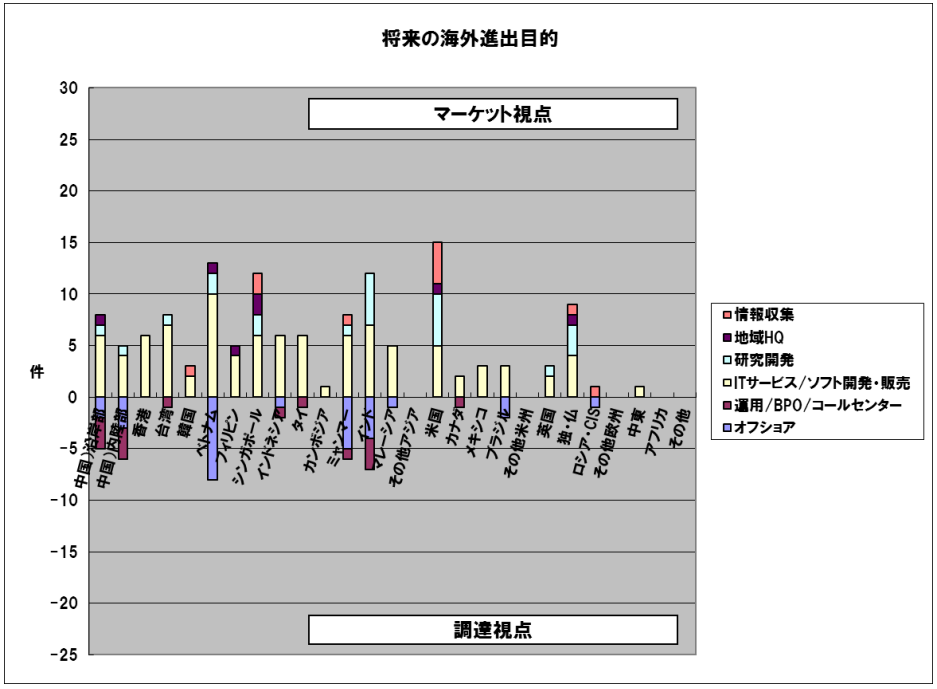




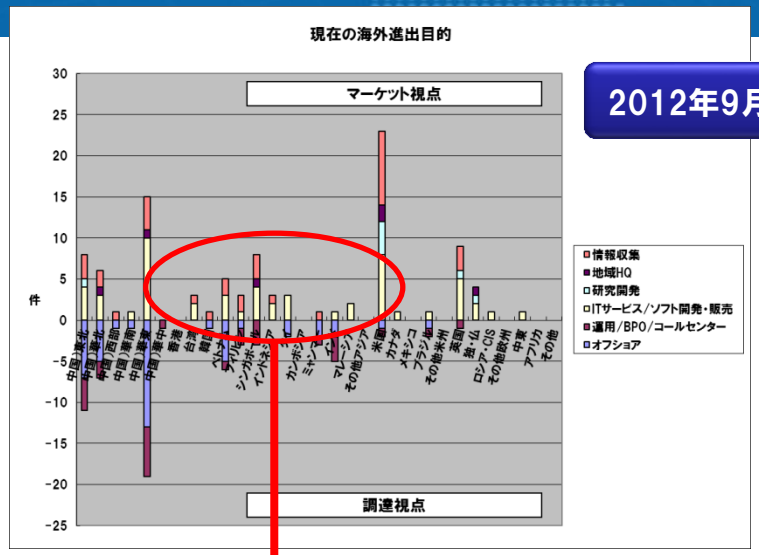
海外進出の目的

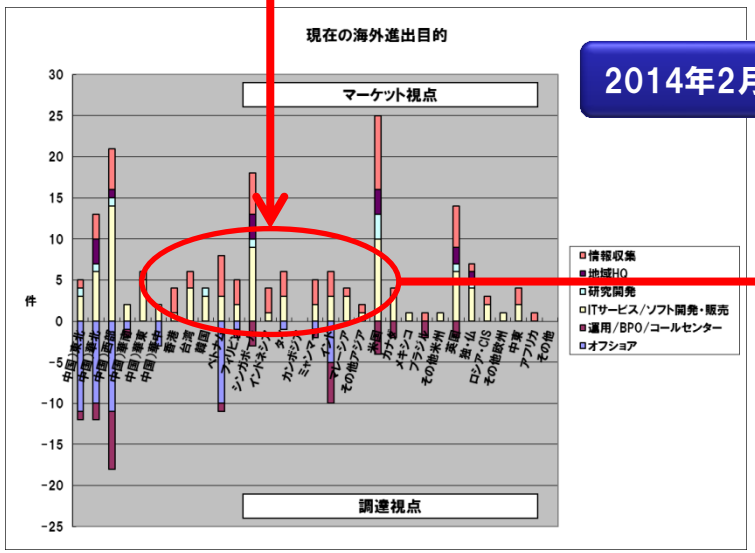
- マーケット視点では、将来的には慎重な意識がうかがわれるが、ビジネスとして着実な展開を目指す意向が感じられる
- 調達視点では、全体的に縮小傾向が継続。また中国やインドなどから、ミャンマー、マレーシアなどの東南アジア諸国への分散意向は継続

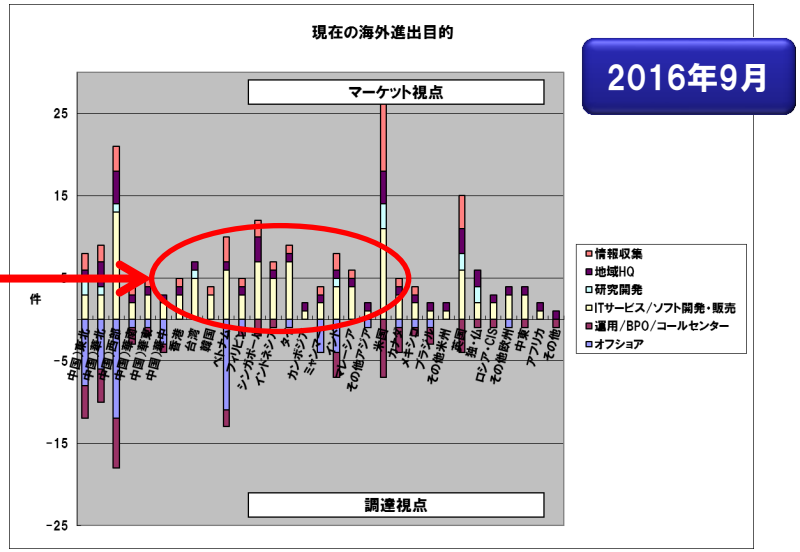




海外進出目的の変化（2012/9→2016/9）

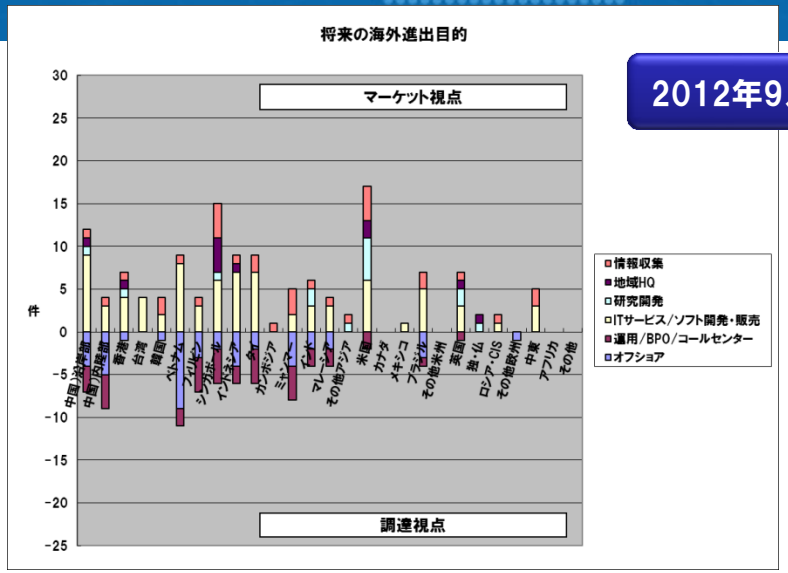






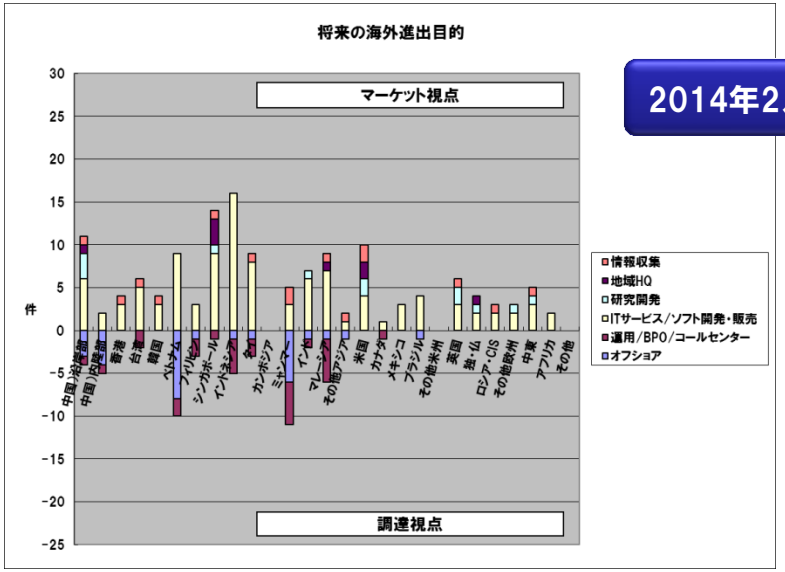
- マーケット視点での海外進出が、東南アジア諸国を中心に一層幅広い地域で進みつつある
- 調達視点では、あまり大きな傾向変化は見られない

将来目的の変化（2012/9→2016/9）

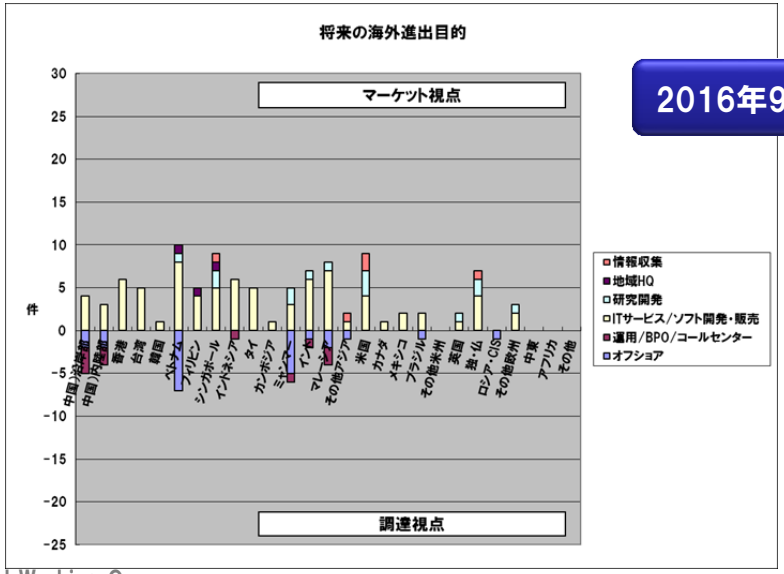


2012年9月

- マーケット視点では、引き続き慎重姿勢傾向にある。
- 調達視点でも、全体的には引き続き縮小傾向がみられる。



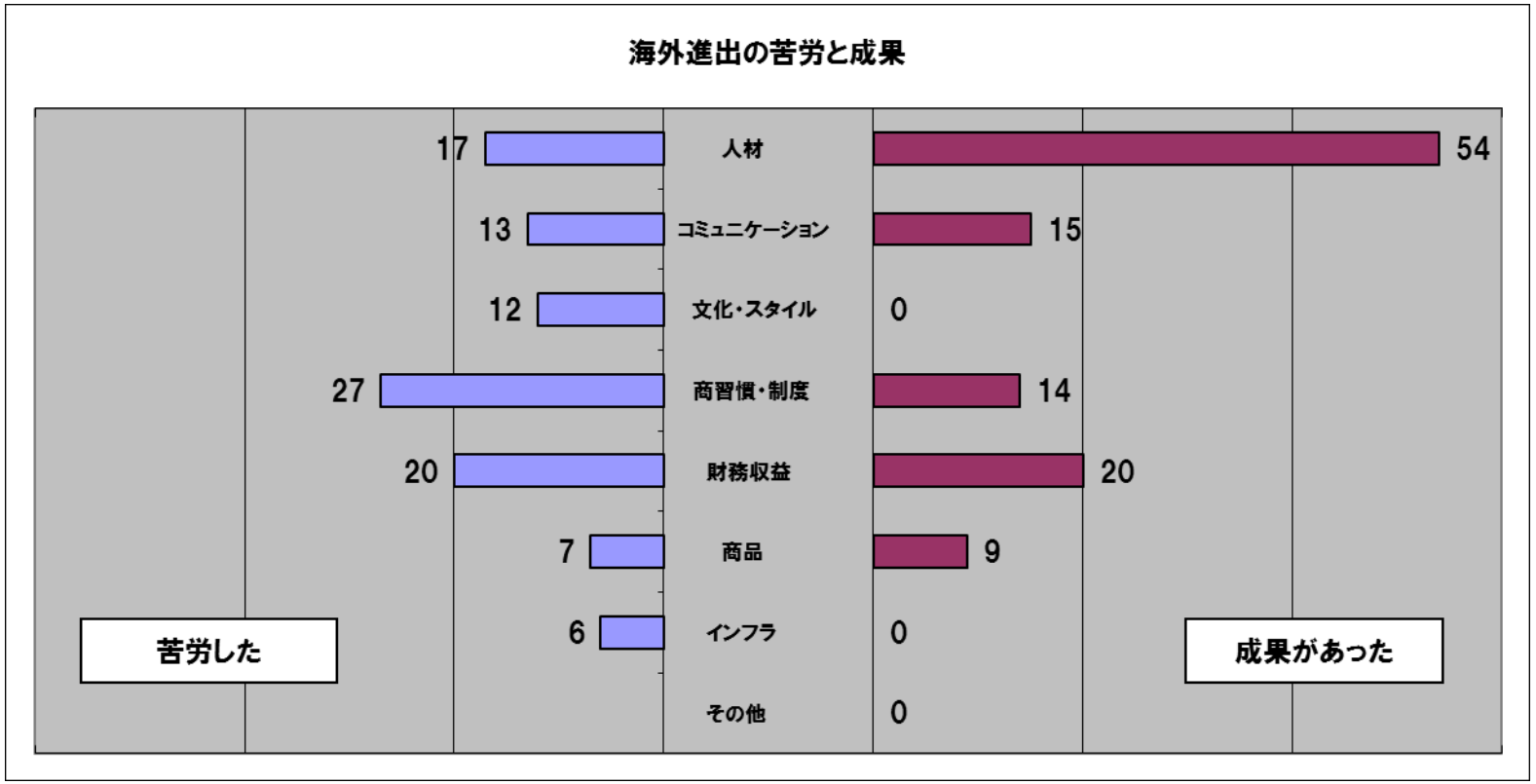
2014年2月



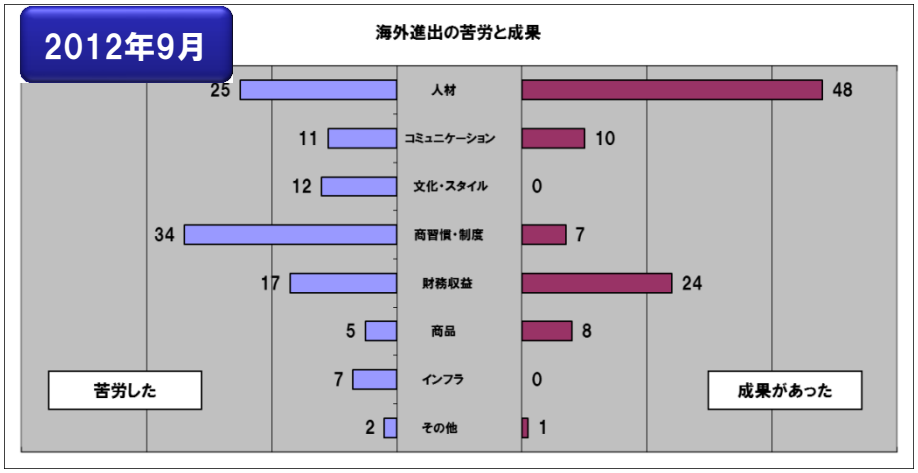
2016年9月

海外進出の苦労と成果

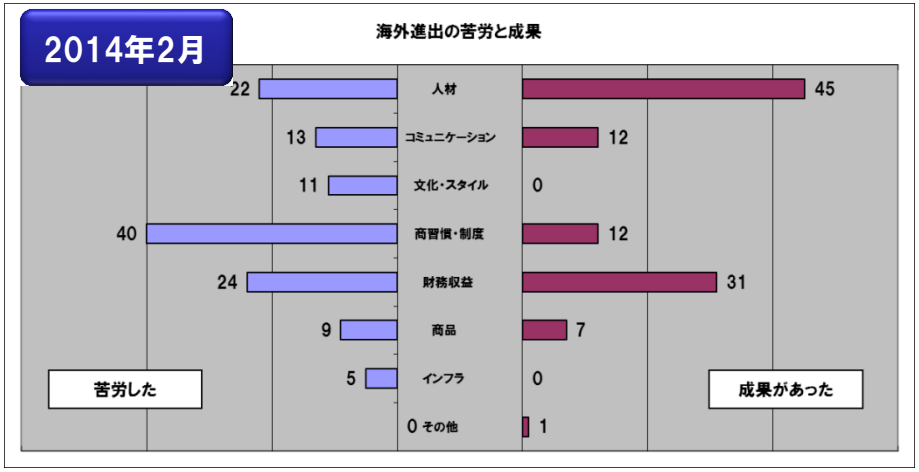
- 人材面では成果が感じられている
- 文化・スタイル、商習慣・制度といったテーマではかなり苦労している様子がうかがえる

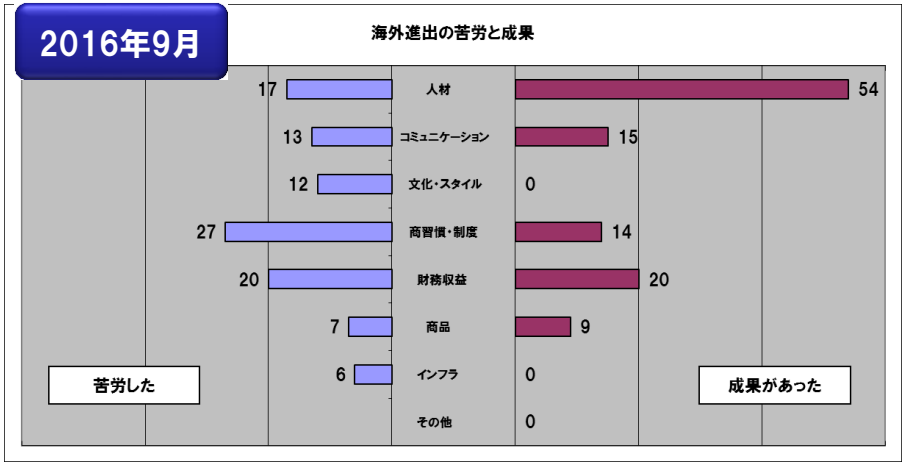


苦労・成果の変化（2012/9→2016/9）



- 全体的に大きな変化はない
- 財務収益については若干メリット減





ご意見（原文まま）

東南アジアにもっと焦点を当てて欲しい。

海外事業展開に関する経験談、海外パートナーとの交渉に関する経験談等の情報交換ができればと考えております。

国内のIT動向をとりまとめられる団体はJISAしかいないと思います。是非ともユーザ企業をも巻き込んだ海外事業に対するアンケート収集をお願いしたいです。

当社では、この数年、オフショア以外の海外事業展開は以下の様な対応をしています。
・インバウンド（海外から良いソリューションを持ってくる）分野
　海外ソリューション＋当社＝新たな価値で国内マーケットに展開
・アウトバウンド（海外へソリューションを提供する）分野
　直接販売（現地に乗り込む）ではなく、パートナ販売（間接販売）で数件の実績があります。
特に、アウトバウンドは、パートナ経由以外にもネットを含めたデジタルマーケティングもこれから出来ると思っていますので、直接売る（展開）ではなく、間接（パートナ、ネット）のやり方も議論したいと思っています。

新参者ですので、まずは皆さまとお近づきになれれば幸いです。

ご意見（原文まま）

今年度の組織になってから、国際委員会は活動しているのだろが、グローバルビジネス研究会は活動が見えない。幾つかの案内は頂いたが、私個人で機会を逸してしまっている。９月になってから第一回の研究会というより、もっと情報交換の場が欲しい。

グローバル展開を考える際には、その地域のインフラ、とりわけインターネット等の通信事情は重要だと感じています。これらにつきましては、各国の法規制もからむ話ですのでそのあたりの情報も共有できるような情報提供の仕組等があると有難く存じます。

海外でのイベントの報告会を、もっと公開して内容を充実させ、事業部ラインのメンバーにも参加させ、勉強させられるような機会にしてほしい。報告内容の精査など、大変かもしれないが、JISAの海外での活動が、各社のグローバル人材育成にも役立つことが印象づけられれば、海外でのイベントへの参加希望者も増え、参加のための予算も取りやすくなる。

超低成長下にある日本マーケットの現状と、将来の国内マーケットも含めたグローバル化の流れなどについて、経営層も含めた啓蒙や情報提供を継続的に行っていくとともに、制度面や環境面での行政府への働きかけやサポートを期待したい。

海外事業展開を通じた自社の強みの明確化を促す議論を促進していただきたいと思います。
グローバル人材育成も重要なテーマなの有識者の講演などにおいて候補テーマの一つにしていただければ幸いです。

ご意見（原文まま）

クラウドサービス、VR、フィンテック等の分野に日本及び海外ベンチャー企業の最新サービス、製品、研究事例などの紹介及び講演者を招へいしたら、グローバルビジネス研究会のファンが増えると思います。

オフショアとして海外の企業と付き合うのではなく、イノベーション創出に向けて海外の企業と付き合う方法を模索および議論したいと思っていますまた、海外の企業の方と協業出来るような人材育成に向けた教育環境の検討などを行えたら良いかと思っています